

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490600014		
法人名	医療法人 末広		
事業所名	グループホーム 無量寿		
所在地	大分県臼杵市大字末広915番地		
自己評価作成日	平成29年5月12日	評価結果市町村受理日	平成29年9月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_1ist=true&PrefCd=44
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館 1F		
訪問調査日	平成29年8月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・お一人お一人を大切にし尊重した対応を心がけています。利用者とのふれあいの時間を大切に、季節行事や地域との交流、レクなどを取り入れ、個々の状況に合わせて喜んでいただけるよう支援しています。またご家族との連携を密にし、ご安心・満足していただけるよう努めています。皆様が毎日穏やかに健康で楽しく生活していただける事を願っています。
 ・食事は新鮮で良質で旬のものを職員が選別して買い物し、栄養バランスや嗜好を考えて季節に合わせたメニューを取り入れています。お刺身はいつも喜ばれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田舎の長閑な地域の医療機関を母体に、ユマニチュードの精神のもと、医療と福祉の連携の営み(利用者支援・職員研修・法人イベント)、地域間交流に取り組んでいます。利用者の個性や思い、出来る事や可能性への気付きを暮らしに育む支援において、家族と職員との信頼関係を大切に職員間のチームパワーで励んでいます。利用者の今を、「笑顔」を大切に、寄り添える介護の実践に向け、基礎となることばや食事への配慮・立ち位置や姿勢による影響、感性に考慮した日常の関わり方の重要性を指摘しています。その人らしく豊かな暮らし(心身機能の維持と健全、回想法の活用等)、ゆったりとリラックス出来る日常生活のケアの充実において、職員間の情報の共有・周知を根底に、意見交換・協議によるチーム力の強化と施設向上に努める体制づくり、笑顔に繋ぐ、運営・環境整備(安全と和み感)に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に基づき年間目標を職員全員で考え意見を出し合って決め、いつも意識・確認出来るよう努力しています。	理念に繋ぐ支援、年間目標「利用者様の思いにそって安心して毎日を通り過ぎていける様に支援していきます。」の実践に向け、全職員の取り組みの姿勢(毎月のケアカンファレンス)が伺えます。法人全体として、地域共生にも努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のボランティアの方(大正琴、フラダンス、日舞、ハーモニカ、フルート等)の訪問があり楽しんでいます。また、お寺のご住職の法話や保育園児との交流もあります。近所の方が手作りの品を届けてくれます。	地区関連の行事(天満宮・保育園)・法人行事(秋祭り等)による地域間交流より、地域に開かれた施設運営の様子が伺えます。地域ボランティアの積極的な受入れやご近所付き合い合いにて、利用者の生活の豊かさへの反映に取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	敬老会や秋祭りなどの行事を毎年企画し、地域の方々やご家族に参加していただき、利用者様との交流を持っていただく事で楽しみながら理解して頂けるよう努力しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開き、地域の方、利用者の家族、行政の方に参加して頂き状況を報告し、活発な意見や質問を元に職員間でも話し合い、サービス向上に活かしています。	参加者と利用者や職員に開かれた施設内の居間の一角にて営まれており、現況把握と理解を深めています。現況(アクシデント等を含む)や研修状況の報告・意見交換が行われています。情報共有による相互の関係作りに努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で市職員の方に参加して頂き、状況報告をし、また情報も頂いています。月1回ケアマネ会議を行い、市の研修会の情報を共有しています。	運営推進会議の参加者(市福祉課と地域包括は交互出席)との、意見交換や交流を大切に支援に活かしています。情報の共有や連携による相互間の関係づくりが図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	白川病院の身体拘束廃止委員会に毎月参加し、資料に全員目を通して頂いています。また研修会やカンファレンスでも話し合いをし、拘束しないケアに取り組んでいます。	医療法人として同等の精神(ユマニチュード)をベースに研修に取り組む中で、会議(勉強会・ケアカンファレンス)において、利用者の理解・変化とサインの職員の気付きとチーム力(共有と協同)、言葉の重要性への意識を大切に、支援に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	毎月の勉強会で新聞の切り抜きやニュース等の資料をもとに話し合い、言葉使い、接遇面、ケアの仕方を振り返り虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議に年3回弁護士さんに出席して頂き、話し合いの場を設けています。また、市役所や地域包括支援センターの方にもご意見を伺っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設内を見学して頂き説明を行い、不安やわからない事を気軽に聞いていただけるよう声をかけし、十分理解し納得していただけるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、自由にご意見をお聞き出来るようにしています。また面会時にも気軽にお話を伺えるよう努力しています。運営推進会議にご家族の方に必ず1名は出席して頂き、ご意見を伺っています。	情報の共有、“無量寿便り”の配布や個人的な状況の伝達と、面会時での会話によるコミュニケーションを大切に、利用者・家族と職員との相互の繋がりを活かした援助に取り組んでいます。家族と現地集合の外出レク(花見)も行われています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスや誕生会に施設長が参加し、職員の意見交換を行っています。また、管理者は職員の意見をまとめ施設長に提案し、運営出来るよう努めています。	毎月の会議では、利用者の理解と援助の統一、支援の方向性の共同を旨に、協議、周知に取り組んでいます。個の利用者の暮らしやすさの視点にて、プロとしての見識を深め、チームワークを大切に施設支援の向上に努めています。	管理者は、職員の自主性(強み)を大切に「チーム力」の向上に取り組んでいます。個人目標の設定(支援やスキル等)と定期面接による意識の明確化の仕組みづくり等、具体的な営みに期待が持たれます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は日頃より職員の状況を把握し、勤務体制や職場環境など配慮してくれています。休日の勉強会、カンファレンスの手当て、交通費なども配慮してくれています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や勉強会、資格取得への協力体制も出来ており、積極的に勧めてくれています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や地域のグループホームへの交流会に参加し、意見交換をしたり、勉強会の資料などでサービスの向上に役立てるよう努力しています。次回運営推進会議で臼杵市の担当者と相談してみます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設内をご家族と共に見学して頂き、不安や困っている事、要望などを丁寧にお聞きし、少しでも不安を軽減出来るよう努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様の様子などをお話し、状況を分かっただき、不安や要望があればいつでも話して頂ける事を伝え、良い雰囲気の中で信頼関係作りが出来るよう努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	精神科医でオレンジドクターでもある施設長が相談に応じ診療を行い、ご本人にとって最適と思われるサービスの選択をご家族と共に相談し、対応するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事や会話、行事やレク等を一緒に楽しみ、共に暮らす者同士として意識し、日々の関わりの中で助けて頂きながら安心できる相手として生活していけるよう努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはご本人の近況を報告しています。毎月無量寿便りとご本人の写真を送り、ご様子が分かるようにしています。また、ケアプランの相談や何でもご本人の為に気軽に相談できる相手になれるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親戚、友人、知人が面会にこられた時はゆっくりくつろいでいただけるよう、居室や居間でお茶をさせていただいたり、一緒に話を聞いたりできるよう努めています。	家族との繋がりを支援する中で、馴染みの方(友達等)や懐かしい場所の把握を大切に、援助(訪問の受け入れ・回想法)により、生活に豊かな趣を醸し出している様子が伺えます。情報は職員間で共有され、継続的な支援に繋げています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操、レクリエーション、行事などに参加して頂き、お互いに係わり合い、楽しい時間が過ごせるよう職員が間に入り支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時は情報提供を行っています。退居された方やご家族には見かけた際は声をかけ近況をお伺いし、必要に応じ相談や支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で思いや希望の把握に努め、毎月担当者がモニタリングを行い、カンファレンスで話し合い、把握できるよう努めています。	利用者の個性と思いの尊重、「笑顔」の導き支援(庭でのお茶会・習字・手伝い等)を大切に、また、仲間との外出レク・音楽療法・陶芸教室なども行われています。心地よい暮らしに目を向け、可能性の実践と気付きの支援に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族より聞き取りをしたり、主治医などの情報により確認するが、日々の生活の中から新たにわかった事なども記録し情報共有していきます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月健康状態をチェックし、食事や排泄の状況、会話、表情、行動などを観察しています。家族からの情報も取り入れ、心身状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月担当者がモニタリングを行い、ケアカンファレンスで意見交換をします。主治医やご家族の意見も聞き、ケアプラン作成に反映させています。	理念の一要素となる「その人らしくゆったり楽しく笑顔で」の支援に基づき、毎月のモニタリング(担当職員)、ケアカンファレンス会議にて職員間の協議が図られ、利用者の現状に沿った援助に全職員で取り組んでいます。家族の意向も踏まえています。	管理者は、福祉と医療の視点から心身機能の安定と保持、生活の豊かさを活かす計画策定に努めています。計画書“サービス内容”の、日々の実践状況の確認において、仕組みづくりに期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や個別記録を毎日行い、変化や気づき等を朝・夕申し送り、申し送りノートにも記入し、職員間で情報を共有しケアプランの見直しに反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の対応が出来ない時は状況に応じ施設長に相談し、必要な買い物や代行したり他医療施設受診の付き添いや送迎も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	臼杵公園のお花見、すみれ保育園の鯉のぼり見学、臼杵石仏の芝桜見学、すえひろ保育園の花祭り等の行事や、ボランティアの方々の慰問で楽しんでいただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設長が白川病院院長であり、定期健診を行っています。また、本人やご家族の希望により他科受診も出来るよう支援しています。(皮膚科・歯科・整形)	白川病院を主治医とされる利用者がほとんどで定期健診も行われ、他科受診やその方の症状にあわせ適切な医療が受けられるよう他の医療機関と連携をとり、24時間適切な医療を受けられるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の職員は1名います。必要時、施設長(院長)に報告し、受診や適切な看護が受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療連携シートにより情報提供をしています。随時状況を把握し、早期退院に向けて情報交換や相談に努めています。担当師長や職員との良い人間関係作りにも努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設長(院長)が本人、家族に現状を説明し、今後の処遇の是非について本人と家族の意向を確認しています。職員も情報を共有し、チームで意向に沿うケアに取り組んでいます。	利用者の体調の変化にあわせ、施設、家族、病院と常に連携をとりながら支援に努めています。敷地内に病院があり、家族の希望から病院に移ることが多く、施設として出来る限りの支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	白川病院の病棟勤務経験者が多く、職員研修会や勉強会で指導されている。いざという時のマニュアルもあり、応急手当や初期対応の訓練も定期的に行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルがあり、定期的に防災訓練も行っています。昼間と夜間を想定した訓練も行いました。消防署と地域の方々の協力も得ています。	年に2回の避難訓練は、さまざまな状況や利用者の身体状況を考慮しながら実施しています。訓練の様子は写真を撮り、記録を残し、職員全体で情報を共有し次回の訓練に生かすよう努めています。	避難訓練において、消防署の方の参加はあったものの地域の方の参加はなかったので、今後地域の方への参加の声かけを検討されています。これから、より地域の方との協力体制が確立されていくことを希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お人お一人を尊重し、プライバシーの保護も十分配慮しています。白川病院での月一回の個人情報保護委員会に参加し、情報共有をしています。ケアカンファレンスで毎月言葉使いやケアの振り返りをしています。人格を尊重した優しい対応に努めています。	利用者のプライバシーや一人ひとりの尊厳を大切に、全職員の研修や日頃の心がけを施設全体で意識し、処遇に生かしています。その時の状況に合わせ、臨機応変な対応を職員間で把握され、取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の言動、表情などから本人の思いや希望を感じ取り、その思いを本人が表せるよう、声かけ等を行っています。またご家族に伺って情報を得ることもあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	押し付けにならないよう必ずご本人の希望に添った、ペースに合わせた支援を心がけています。マンネリ化しないように希望を聞きレク等を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪、髭剃り、化粧水やクリームを付ける等、身だしなみが出来るよう支援しています。洋服やスカーフを一緒に選ぶこともあります。希望を聞いて定期的に散髪も出来ています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査をしたり、誕生日に好きなメニューを取り入れています。里芋の皮をむいたり、稲荷作り等手伝って頂いています。テーブルやお膳拭き、下膳の手伝いもして頂いています。	食事はとても充実しています。刻み食の利用者が増えてきているものの、食事の前には食材の説明をし、一人ひとりの体調に合わせた栄養指導をとり入れ、職員と一緒に片付けが出来ることの支援に取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態や口腔内の状況により各々食事形態を決めています。食前は口腔体操をして誤嚥防止に努めています。栄養バランスの取れた食事を工夫して、水分補給も個人に応じ摂取して頂いています。毎食のチェックを行い、少ない時は補食を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアの声かけ、セッティング、介助を行っています。毎月のモニタリングでも各々の口腔内やケアの仕方を記録しています。職員間で情報を共有し、各人に応じたケアを行い清潔を保持しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンや習慣を把握し、ご本人に合わせたトイレ介助を行っています。出来るだけオムツから紙パンツに向けた取り組みを行っています。	利用者一人ひとりの排泄パターンを職員全員で共有し、常に気を配りながら、出来るだけ自立に向けた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便状態を把握し、便秘が健康や周辺症状等に影響することを理解し、排便コントロールを各人に行っています。食事・水分・運動に配慮しています。野菜やヨーグルト、ヤクルト、バナナもとるようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別に希望を聞いて気持ちよく入浴して頂いています。体調や気分により入浴できない時は希望を聞いています。清拭も行っています。	利用者の体調や希望に沿った支援に努めています。着替えの洋服も一緒に選んだり、入浴が出来てない時は、清拭をされるなど利用者に合わせた支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調を考えながらご本人の希望に添えるように支援しています。なじみの物、枕の位置、水分補給、声かけ等を行い、安心して眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の情報をファイルしておりいつでも確認できます。個別に服薬支援を行い、確認し、その後の状態観察も行っています。与薬チェックシートも使用しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操、ぬり絵、習字、風船バレー、カラオケ、散歩、陶芸、脳トレ、編み物などをされたり、お盆拭き、下膳、洗濯物干しとたたみ、テーブル拭き等出来る方が皆で協力してくれています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外のベンチに座って歌ったり、花を見に近くを散歩したりしています。また、皆で外出レクも時々しますが、個人的にご家族とドライブや買い物に行く方もいます。	日常的な外出だけでなく、馴染みの場所への外出支援で思いがけない出会いや想い出話を聞ける事もあり、喜ばれています。年間の行事計画で外出レクも行われています。利用者の体調や状態を考慮され、外出先で家族と合流し一緒に楽しまれ、家族の方に喜ばれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族と相談し、希望する方は多額にならない程度所持しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話で自由に電話をする方もいます。公衆電話を使用する方もいますが、出来ない方は職員が手伝っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温かみがある木造で天井が高く開放感のあるとても居心地の良い居間があり、台所と対面しているので様子が分かります。冬は暖炉があり喜ばれています。テーブルにお花を、空間には観葉植物を飾り、季節毎に作品を飾り、快適に過ごせるよう支援しています。	家庭的な雰囲気の中でゆっくり寛げる空間づくりに努めています。壁面には利用者と一緒に作られた季節ごとの作品を飾り、温室管理は一年を通して快適に安全、安心して過ごしていただけるよう支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や居間に長椅子などを設置し、利用者さんや職員、ご家族も一緒に過ごしています。和室の畳の間も自由に使っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真、家具(テーブルや椅子)、テレビ、ラジオ、布団、毛布などご本人が使い慣れた好きなものを使用されています。思い出の品やお子さんやお孫さんの写真も多く、明るい場所になっています。	利用者の馴染みの物を持ち込まれ、それぞれに居心地よく過ごせるよう工夫されています。利用者の状態を考慮された居室の配慮や温室管理も各人に合わせた対応がされており細かな心遣いに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで手すりがあり、安全に生活出来ます。トイレに目印を付けてわかりやすくしたり、自分の部屋にも名前がわかるように飾りを付けて目印にしています。ベッドの位置や高さもご本人が使いやすいように調整しています。		